

石膏模型を製作して實施に移つたので、其の数は頗る多く、巾9尺長20數尺といふ大物もある。これ等の模型製作には其の掛りを置き囑託佐野昭氏、相曾秀之助技手が主としてこれに従事したのである。又本館配景畫として

は油繪を以て白瀧幾之助氏が作成したがこれも灰燼に歸した。又中央廣間の壁畫は假物として吉武東里、安田清、田中儀一、熊谷年郎、高橋偉司郎が描いた。

—以下次號—

## 新 議 事 堂 雜 話

### 竣 工 式

豪華なる偉容を誇る帝國議會新議事堂の盛大な落成式は菊花香る十一月四日から一週間の豫定で始まつた。

十一月四日午前十時、中央高塔下の大ホールで厳かな修竣式が行はれ、五日には畏くも天皇陛下が親しく行李遊ばされて、27年間此建築に身命を捧げて來た大熊博士の御説明を聴し召されつゝ約50分間にわたり新議事堂内部を御巡覽遊ばされた。六日は各皇族方の御内覽がある。

落成式は翌七日午前十一時から營繕管財局川越長官の開會の辭に始まり、大熊工務部長の工事報告、各方面の祝辭があつて式が終ると祝宴が開かれる。この落成式の狀況はラヂオで全國に放送される。また八日の日曜日は午前十一時からAKの議事堂見學放送がある。

九日と十日の兩日は午前九時から午後三時まで關係者其他の參觀が許される。尙此の祭典一週間の全夜、議事堂は夜間照明されて本號217頁の寫眞に見る如く、白亜の殿堂が暗闇の空に美しく輝き出すことになる。

### 記 憶 設 計

大藏省營繕管財局工務部長大熊喜邦博士は明治四十三年に初めて議事堂の準備設計にかゝられて以來二十七年間此建築に身命を捧げて來たのであるが、その間の苦心は實に並大でないのではなく、殊にあの大震災で設計圖は勿論殆んど全部の關係書類、模型等が烏有に歸した時

は、博士をはじめ關係の技術者一同呆然とする外なかつたと云ふ。しかも大熊博士の記事にもある通り、關係者一同僅かに残つた資料を基礎として各自の記憶により、所謂記憶設計にとりかゝつたのであるが、其努力、其苦心は全く尋常一様のことではなかつた。

また大熊博士には明治四十三年敷地の最初の地質調査をしてゐる時15トンの水槽につぶされて危ふく死ぬところだつたと云ふ恐ろしい思ひ出もあるのだ。

### 大 き さ

新議事堂の外装に使用された花崗石は1立方尺の塊として積み上げれば富士山の約30倍に達する高さとなることは大熊博士の記事にも見えるが、この議事堂の目方は約2,800萬貫、總工費が約2,800萬圓だから1貫毎當り工費1圓と云ふことになる。使用鐵筋は5分徑として換算すると886里の延長となり日本からホルム、まで達する譯だ。中央の大ホールには法隆寺の塔がそつくり入つてしまう。また議事堂の長さば681尺だから、隅田川大橋の一つである清洲橋より81尺長い。しかしツェツパリン飛行船よりは少し短いと云ふことだ。室數全部で449室、之をつなぐ廊下の延長1里と7丁とは驚く。高さは地盤が標高88尺、中央塔が地盤上216尺だから、塔の頂は海拔304尺となり、東京市内之と高さを競ふものは何もないわけである。以上は大熊博士のお話による。